

期間	班長
昭和 47～53 年度	清水 保
研究	ウイルス感染説の検証 環境汚染原因説、微量金属病因論の検討 HLA-B5(HLA-B*51)の関連がはじめて提唱される (Ono S, et al. Lancet. 1973) 口腔粘膜細胞に対する自己抗体と自己免疫 機序の検討 血清 IgD の意義の検討
その他	全国疫学調査
昭和 54～59 年度	稲葉午朗
研究	病因としての環境汚染、病原微生物の検討 口腔粘膜細胞に対する自己抗体と自己免疫 機序の検討
その他	臨床症状による臨床型(完全型、不全型、疑い例、特 殊型)の定義 第 3 回 国際ベーチェット病会議(東京、1981)
昭和 60～平成元年度	水島 裕

研究	コルヒチン治療の確立 (Mizushima et al, Lancet 1977) 疾患感受性遺伝子としての HLA-B51 とその 近傍遺伝子の解析 口腔内常在連鎖球菌 Streptococcus Sanguinis に対する過敏反応を解析 好中球機能亢進と発症機序の関連
その他	ベーチェット病診断基準(1987 年) 眼病変に対するシクロスポリン治療ガイドライン
平成元～7 年度	坂根 剛
研究	熱ショック蛋白(HSP) 60/65 に対する自己免疫説を検討 (Kaneko S, Sakane T, et al. Clin Exp Immunol. 1997) HLA-B51 トランスジェニックマウスの好中 球機能異常を証明 (Takeno M, Sakane T. et al Arthritis Rheum. 1995) 病態における炎症性サイトカイン TNF-α、 IL-6 の解析 Th1/Th2 バランスの異常と Th1 制御による 治療応用の可能性の検討 (Kaneko S, Sakane T, et al. Clin Exp Immunol. 1997) Th0 細胞の病因的意義 (Yamashita N, Sakane T, et al. Clin

	Exp Immunol. 1997) 好中球機能過剰と HLA-B51 の関連を説明 (Takeno M, Sakane T. et al Arthritis Rheum. 1995)
その他	眼病変に対するタクロリムスの臨床試験。有効性は確認されたが、中枢神経副作用のため 承認されず。 全国疫学調査
平成 8～13 年度	大野重昭
研究	疾患感受性遺伝子としての HLA-B51 とその 近傍遺伝子の解析 (Mizuki N, et al Proc Natl Acad Sci U S A. 1997) MICA の病因的意義の解析 HLA-B51、MICA 多型の免疫異常における 役割の解析 (Yasuoka H et al Arthritis Rheum. 2004) Bes-1 DNA と網膜蛋白 Brn-3b との相同性 の証明 実験的ブドウ膜炎モデルの病態解析とその 知見の治療応用 眼病変に対するインフリキシマブの臨床試験 (Ohno S, et

	al. J Rheumatol. 2004) 顆粒球吸着カラム治療の検討
その他	重症度分類・活動性基準
平成 14～19 年度	金子史男
研究	Streptococcus Sanguinis 由来の Bes-1 DNA を病変部より 検出し、その免疫応答の関与を 示す Th1/Th17 の病態への関与(Shimmizu J, et al Clin Exp Immunol, 2005) MICA の病因的意義の解析(Yasuoka H et al Arthritis Rheum. 2004) Bes-1 DNA の病変局在を証明(Tojo H, Kaneko F, et al. Adv Exp Med Biol. 2003) Th1 細胞の活性化 (Nagafuchi H, Clin Exp Immunol, 2005) NK1/NK2 バランスと疾患活動性 (Yamaguchi Y, et al. Arthritis Res Ther. 2010)

その他	インフリキシマブの薬理効果の免疫学的解析(Misumi M, Ishigatsubo Y, et al. Cytokine 2003) ベーチェット病診断基準改訂(2003 年) 重症度分類改訂(2003 年) 腸管ベーチェット病診療ガイドライン(2007 年) 眼病変に対するインフリキシマ保険承認(2007 年)
平成 20～25 年度	石ヶ坪良明
研究	GWAS により疾患感受性遺伝子 IL10、IL23R/IL12RB2 を同定(Mizuki N, et al. Nat Genet 2010) マイクロサテライト GWAS による HLA-A*26 の疾患感受性の同定(Meguro A et al., Ann Rheum Dis 2010) HLA-A*26 と視力予後の検討(Kaburaki et al., Clin Exp Rheumatol 2010) GWAS の追加解析による 疾患感受性遺伝子の同定(Kirino Y, Ishigatsubo Y, et al. Nat Genet 2013)

	レアバリエーションの関連解析による TLR4, NOD2 の同定 (Kirino Y et al. Proc Natl Acad Sci USA 2013) 疾患感受性遺伝子のコードする蛋白の発現異常(TLR4 など)の病 態への寄与(Kirino Y, Ishigatsubo Y, et al. Arthritis Res Ther. 2010)
その他	ベーチェット病診断基準改訂(2010) 眼病変診療ガイドライン (2010) 腸管ベーチェット病診療ガイドライン(2011) 第 1 回、第 3 回、第 5 回日韓ベーチェット病合同会議 (横浜、2001, 2011, 2013) 第 15 回国債ベーチェット病会議(2012)
平成 26～31 年度	水木信久
研究	眼病変に対するインフリキシマブ治療の長期成績 (Takeuchi M et al. Ophthalmol 2014) ERAP1 のハプロタイプ解析 (Takeuchi M et al. Ann Rheum Dis 2016) 日本人、トルコ人、イラン人集団の遺伝子解析研究 (Takeuchi M et al. Nat Genet 2017)

	日本人ベーチェット病患者の臨床症状の遷移(Kirino Y et al. Arthritis Res Ther 2016)
その他	インフリキシマブの腸管型・神経型・血管+B24:D27 型ベーチェット病の承認取得（2015） アダリムマブの難治性ぶどう膜炎の承認取得(2016) 日本ベーチェット病学会の創設(2017) ベーチェット病口腔潰瘍に対するアプレミラストの承認取得(2019) ベーチェット病診療ガイドライン(2019)
令和 2 年度～	岳野光洋
研究	日本人ベーチェット病患者における臨床的クラスター解析 (Soejima Y et al. Arthritis Res Ther 2021) 日本人ベーチェット病患者におけるアプレミラストの有効性 ((Hirahara L et al. Mod Rheum2021, Takeno M et al. Modern Rheum, 2022)

その他	ベーチェット病レジストリの構築（2020） 第1回ベーチェット病患者相談会（web、2020）
-----	--